



# tonysame: kim songhe UPCYCLE PROJECT

廃材を輝かせるクリエイション

「Connect つながる」というコンセプトを掲げ、これまでに様々なブランド・デザイナーとコラボレーションをしてきたトニーセイム。価値観の変化が指摘されている2021年、これから半年を費やして進行されるという新しいプロジェクトでは、シャンデリアアーティストとして活躍するキム・ソンヘさんと共同で廃材アートを作り上げるという。この春 渋谷パルコアートギャラリーで行われていた「キムソンヘ展」にて、気になるその取り組みについて伺った。

Special Thanks:<https://kimsonghe.com/>



左写真\_キムソンヘさんとトニーセイム ジャパン代表の細井礼さん。「アイウェアブランドとしてのサステイナブルな取り組みを考えた時に、私の友人でありずっと前から廃材を使った作品を生み出しているキムさんとなら、何か面白いことが出来るだろうと思ったんです」。右上、右下\_何もないところに天国を作り出すインスタレーションアート「天国プロジェクト」。被災地の仮設住宅に暮らす年配の男性と男の子が将棋を指す写真もその活動の一環で、シャンデリア以外にも廃材を利用した作品作りも行っている。



昨年で活動15周年を迎えたシャンデリアアーティストのキムソンヘさん。彼女は、要らなくなったぬいぐるみや家の中に眠っているものを素材にして、もう一度日の目を浴びさせよう。生まれ変わらせよう。という信念を持って、廃材を使ったアートを制作し続けている。「シャンデリアの光の下っていうのは人が集まる煌びやかな場所。そういう場所で飾られて、みんなから見ってもらって、そしてアートとして楽しめるような作品を目指しています」

また、キムさんにとって作品を見もらうということはメッセージを伝えることでもあるという。例えば最も原点にある想いに、国籍や人種、境遇など、あらゆることに対して垣根がない世界になって欲しいという

願いがある。作品の中に様々な要素を混在させているのも、彼女が作品に込めたメッセージでもあるのだ。

今回の展示会では来場者から集めた不要なおもちゃを回収し、公開制作を行っていた。P14の写真がその作品で、開催期間中は自分が持ってきたおもちゃが作品でどう使われたか気になって、何度も足を運んでくれるお客様もいたそう。

持続可能な社会を形成するには、従来からリユース、リデュース、リサイクルが大切だと考えられているが、トニーセイムが目向けたのは素材を活かして作り変えるというアップサイクルという取り組みだった。「役目を終えたものが再び使われ、脚光を浴びるというのはモノづくりをする者として嬉しいこと。今回は一

般の方々が使ってもう使われなくなった眼鏡、あるいは店舗や我々メーカー側の検品で弾かれて販売ができないフレーム、工場が出る廃材。そういったものをこの春から回収し、その後キムさんに材料をお渡しして作品を制作してもらおう計画です」

完成したアート作品は、秋のアイウェアの展示会で発表。そして全国各地のトニーセイム取扱店で展示ができるように計画しているという。「これまでに様々な方とコラボレーションされているキムさんにとっても、私たちトニーセイムにとっても、眼鏡のアップサイクルは全く新しい試み。眼鏡ならではの透明感や硬質感を活かして、光を受けてキラキラ輝かせることができればいいなあ。と妄想・構想を膨らませています」